

3. シチュエーション2： 論文データベース検索結果から



続いて、フルテキストの入手を検討する2つ目のシチュエーションとして、論文データベースの検索結果からフルテキストを入手する方法をみてみましょう。

本文リンクボタンをチェック

例：CiNii Research の検索結果画面



22

今回は、日本語論文を探すときによく使われるデータベース「CiNii Research」を例にとって解説します。

CiNii Researchの検索結果にはこのように、オレンジ色のリンクボタンが付いていることがあります。

例えば、右側の「機関リポジトリ」というリンクをクリックすると、論文のフルテキストが公開されているWebページに遷移することができます。

（「機関リポジトリ」とは、各研究機関が運営している学術情報を公開するためのサイトです。その研究機関で発行されている学術雑誌・紀要類の掲載論文や、その研究機関に提出された学位論文などが公開されています。）

本文リンクボタンについての注意

ボタンを押してリンク先に行っても、本文が読めないことがある

(例) CiNii Researchの場合

■ 本文が入手できるパターン

機関リポジトリ のボタン



■ 本文が入手できるか分からないパターン

上記以外のボタン

リンクボタンなし

どちらの結果もあり得る



うまく
入手できないときは
次の方法へ！

注意していただきたいのは、リンクボタンと大阪大学の所蔵状況・契約状況が必ずしも対応していないということです。

CiNii Researchに限らず、各種データベースでは論文フルテキストへのリンクボタンが表示されています。

ただ、こうしたボタンはデータベース側が機械的に表示させているもので、大阪大学の所蔵状況を参照しているわけではありません。そのため、「機関リポジトリ」以外のリンクボタンをクリックした場合に、フルテキストが直ちには利用できないことがあります。

また、大阪大学で紙の雑誌を所蔵していたり、電子ジャーナルを契約したりして利用することができるものにリンクボタンが付いていないこともあります。

もっとも、データベースの検索結果から、大阪大学の所蔵・契約状況を確認することができないわけではありません。

データベースの検索結果に表示されるリンクボタンをクリックしてもフルテキストを入手することができなかった場合には、すぐに諦めてしまわずに、次に説明する方法を試してみてください。

電子 or 紙の雑誌が阪大で使えるか確認

検索結果に表示されている以下のボタンをクリック 例

CiNii Research、JDreamIII、
Web of Science、Scopus、MEDLINE etc.



CAS SciFinder
Discovery Platform for Academics

Full Text ▾



UOsaka Full Text Finder

Google Scholar

[PDF] nii.ac.jp
Full-Text@大阪大学/Uosaka

設定 > 図書館リンク
"大阪大学"で検索
Full-Text@大阪大学/Uosaka を選択

PubMed

阪大専用入口から入る必要がある
[生命科学図書館のWebサイト](#)からアクセス



24

大阪大学のキャンパス内で学内ネットワーク (odins-1x) に接続するか、キャンパス外から大阪大学個人IDによる認証を経てCiNii Researchを利用していると、検索結果一覧に「大阪大学で本文を探す」というリンクボタンが、各論文の詳細画面の下方に「UOsaka」というアイコンが表示されます。

機関リポジトリなどで論文が公開されていない場合に、大阪大学でその論文の本文を入手することができるかを確認するために使うのが、この「UOsaka」マークのアイコンです。

CiNii Research以外にも、多くのデータベースでこの「UOsaka」アイコンが表示されます。このボタンをクリックすることで、電子ジャーナルや紙の雑誌が阪大で使えるかどうかをチェックすることができます。

なお、一部のデータベースではボタンの見た目が異なっていたり、ボタンではなくテキストリンク形式だったりするのでご注意ください。

下記のリンク先の論文を例にとってみます。
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1521980704613472512>

こちらの論文は、CiNii Researchに表示されるのリンクボタンをクリックしても論文フルテキストが入手できないものです。

ところが、「UOsaka」アイコンをクリックすると、フルテキストへのリンクが

表示されます。つまり、大阪大学で契約している電子ジャーナルでフルテキストを利用できる論文なのです。

こういったケースが多々ありますので、データベースの検索結果に表示されるリンクボタンからフルテキストを入手することができない場合には、念のために「UOsaka」のアイコンもクリックして確認するようにしてください。

電子 or 紙の雑誌が阪大で使えるか確認

 いちようマーク等を押すとこの画面に



【Web上でフルテキストにアクセスする】
電子ジャーナル（契約 or フリー公開）があればリンクが表示される
※リンクの横に表示されている利用可能範囲に注意
例：1975-01-01 - 現在

【大阪大学に冊子版があるか探す】
リンクをクリックすると
阪大OPACを検索してくれる

【学外から文献を取り寄せる】
電子ジャーナルも紙の雑誌も無いときは
「ILLサービス」の利用を検討する

25

「UOsaka」アイコンをクリックすると、「Full Text Finder」という画面に進みます。この画面にどのような情報がまとめられているのかを解説します。

画面は大きく5つの部分に分かれています。そのうち、特に注目していただきたい部分は3つあります。

1つ目は「Web上でフルテキストにアクセスする」という部分です。ここでは、電子ジャーナルを利用できるかどうかを確認することができます。リンクの横に表示されている利用可能範囲に含まれている巻号は、フルテキストを入手することができます。

2つ目は、「大阪大学に冊子版があるか探す」の部分です。利用できる電子ジャーナルがない場合は、この部分で大阪大学で利用可能な紙の雑誌を確認してください。リンクをクリックすると、大阪大学の蔵書検索（OPAC）画面に移動します。探している雑誌がヒットしたら、雑誌の詳細画面を開きます。その後はすでに説明した通り、「配架場所」と「所蔵巻号」欄をチェックして、読みたい論文が載っている巻号を所蔵しているかどうかを確認してください。

3つ目は、「学外から文献を取り寄せる」の部分です。大阪大学で利用できる紙の雑誌もない場合には、他大学から文献を取り寄せることを検討することになります。

ます。

このサービスは「ILLサービス」と呼ばれています。ILLサービスについては、後で詳しく解説します。

(参考) データベースへのアクセス方法

図書館Webサイトで「データベース」のタブをクリック



26

なお、大阪大学で契約しているデータベースには、図書館Webサイトからアクセスすることができます。また、契約データベースをまとめたページ (<https://www.library.osaka-u.ac.jp/resource/database/dblist/>) も図書館Webサイトに掲載しております。

ここでは、データベースへのアクセス方法をご紹介します。図書館Webサイトのトップページには、OPACの検索窓がデフォルトで表示されています。こちらの検索窓の上にあるいくつかのタブのうち、「データベース」のタブをクリックすると、データベースの検索画面に切り替わります。

この画面には、よく使われるデータベースをまとめたプルダウンメニューや、データベースの一覧ページへのリンクがまとめられています。

ここまでのまとめ

データベースの検索結果からフルテキストを入手するときは・・・

① 検索結果の本文リンクボタンをクリック

本文リンクが無いとき、リンク先で読めないときは、

② アイコンをクリック

電子ジャーナルと紙の雑誌をまとめて探せます



27

それでは、ここまでのまとめです。

文献入手を検討する2つ目のシチュエーションとして、論文データベースの検索結果からフルテキストを入手する方法を、CiNii Researchを例にとって紹介しました。

検索結果に表示されるリンクボタンのリンク先でフルテキストを入手することができる場合と、できない場合があります。

リンクボタンのリンク先でフルテキストを入手することができない場合には、

「UOsaka」アイコンをクリックすると表示される「Full Text Finder」で、大阪大学で所蔵・契約している電子ジャーナルや紙の雑誌が利用できるかどうかを確認してください。